

平成23年度

「基礎・基本」定着度調査結果（概要）

（平成24年1月調査）

平成24年3月

鹿児島県教育委員会

目 次

○ 結果概要	
○ 本調査結果による指導法改善について	1
○ 平成23年度「基礎・基本」定着度調査結果（概要）の見方	2
I 調査の概要	3
II 各教科の結果	
1 各教科の平均通過率	4
2 各教科の内容・領域及び観点別の平均通過率	
(1) 国語	5
(2) 社会	9
(3) 算数・数学	13
(4) 理科	17
(5) 英語	21
3 各設問の分類と平均通過率	
(1) 国語	24
(2) 社会	27
(3) 算数・数学	30
(4) 理科	33
(5) 英語	36
4 各受検者の正答数の分布	
一覧表	38
(1) 国語	39
(2) 社会	40
(3) 算数・数学	41
(4) 理科	42
(5) 英語	43
5 地区別の平均通過率	44

平成23年度「基礎・基本」定着度調査について

1 調査の概要

(1) 調査の趣旨・目的

県内の児童生徒の学力の定着度について、客観的なデータに基づく把握・分析等を行い、各学校における指導法改善の取組等を支援することにより、児童生徒の学力向上を図る。

(2) 調査の重点

今年度も引き続き、選択式の設問に加え、知識・技能の活用に関する記述式の設問などを一定数出題した上で、目標平均通過率を70%に設定した。

(3) 調査の実施日

平成24年1月17日(火)、18日(水)

(4) 対象学年、対象教科

小学校第5学年(国語、社会、算数、理科)

中学校第1・2学年(国語、社会、数学、理科、英語)

2 結果の概要

- 全14調査中、目標平均通過率を達成したものが4調査、達成と同視できるものが4調査であり、県全体では、昨年度から一定の改善が図られたと評価できる。他方、県内の各地区間・各教科間では、改善のみられたものとみられないものの差が大きく、注意が必要である。
- 下記の、県としての全体的な課題・傾向については、依然として継続している。(ただし、各地区間及び各教科間で差はある。)
 - ・ 小学校段階の通過率は、すべての教科で概ね目標を達成しているが、中学校段階では、学年の進行に伴い、学力の定着が十分に図られていない面がみられる。
 - ・ 小学校・中学校段階に共通して、基本的な知識・技能については比較的定着がみられるものの、それらを活用し、思考・表現する力が不十分である。

3 各教科の平均通過率等

		H23	H22
国語	小5	72.4	70.0
	中1	74.0	73.1
	中2	65.7	67.8

- 文章を「読むこと」「書くこと」の定着が不十分である。
- 小学校5年生時に出題した同一の漢字の書き取り問題の通過率が、中学校1年生でも変わらないなど、過去の調査結果への着実な対応が図られていない。

		H23	H22
社会	小5	69.2	72.1
	中1	69.6	63.7
	中2	63.4	69.6

- 資料の基本的な読み取りや、読み取ったことを基に考察して表現する力に課題がみられる。
- 用語や事象への理解が表層的なレベルにとどまっており、社会的事象の持つ意味や相互の関連性などについて、定着が図られていない。

		H23	H22
算数	小5	69.6	62.7
	中1	66.7	64.9
	中2	65.7	64.3

- 全体的に通過率は上昇しているが、目標平均通過率には至っていない。
- 日常生活と関連した数学的な思考に関する、基本的な設問の通過率が低く、早急な対応が必要である。

		H23	H22
理科	小5	72.3	70.6
	中1	63.9	65.7
	中2	64.6	59.8

- 知識や記憶が表層的なレベルにとどまっており、観察や実験を通して、概念の理解を「ぶれ」や「ゆらぎ」のないものへ高める必要がある。
- 身の回りの事象への科学的概念の適用に関する、基本的な設問の通過率が低く、早急な対応が必要である。

		H23	H22
英語	小5	-	-
	中1	77.0	73.9
	中2	69.8	66.6

- 全体的に通過率は上昇しているが、各地区間の改善状況に大きな差がある。
- 極めて基本的な単語から英作文まで、場面に応じて語彙を選び、かつ、正確に書く力に課題がみられる。

4 調査結果の活用(今後の対応)

今後、本調査の更に詳細な分析を行い、その結果を教職員研修等において集中的に活用することなどにより、県下全体での課題認識の共有と必要な対応の推進に、着実に取り組む。

また、昨年度からの課題に対する改善がみられない分野については、本県独自教材「鹿児島ベーシック」(中学校用)や鹿児島チャレンジ(小学校用)の改訂を6月末までに行い、各学校における学力向上への取組を積極的に支援する。

本調査結果による指導法改善について

「基礎・基本」定着度調査は、児童生徒の基礎・基本の定着のため、客観的なデータに基づく定着度の把握及び指導法改善をねらいとしています。

各学校では、調査直後から、自校の結果を踏まえた補充指導や次年度の指導計画の見直し等の取組が行われていると思います。

さらに、調査票の問題や本資料を活用し、指導法改善を進めてください。

○ 調査票

本調査で出題した問題は、児童生徒が身に付けてほしいと考える学力について、具体的に示したものです。

各学校においては、今回の調査票の問題を授業の終末や単元末の評価場面などで活用し、定着度の把握や個別指導に役立ててください。

○ 特に定着を図りたい問題

本調査結果を受け、学力の中心的な内容、領域を取り上げました。これまでの調査において、定着度が高まってきている傾向がある一方で、現状が変わらないものも見られます。

特に、改善が急務である問題を精選して、改善策を提案していますので、これらを参考にして確実な定着を図るように努めてください。

○ 各設問ごとの通過率

今回の調査結果で、特に通過率が50%未満だった問題について明示しています。各学校の実態と比較して、通過率の低かった内容を確認してください。

また、その内容については、指導計画等を重点化することにより、授業の指導法改善を図るとともに、演習や個別指導などの補充指導を充実させることが大切です。

○ 鹿児島ベーシック、鹿児島チャレンジ

鹿児島県教育委員会では、過去の調査のデータを踏まえ、学校や家庭の学習を支援する学習ガイド「鹿児島ベーシック」（中学校1，2年生用）「鹿児島チャレンジ」（小学校5，6年生）を作成し、県教育委員会のウェブページに掲載しています。

これらの問題を授業で活用したり、解説を指導法改善の参考にしたりしてください。なお、平成24年度も引き続き、調査結果を踏まえ「鹿児島ベーシック」「鹿児島チャレンジ」の改訂版を作成する予定です。

「基礎・基本」定着度調査結果（概要）の見方

本書は、鹿児島県教育委員会が各市町村教育委員会及び各小・中学校の協力を得て、平成24年1月に実施した平成23年度「基礎・基本」定着度調査の結果概要です。

1 本書の構成について

本書は、次のような構成になっています。

- I 調査の概要
- II 各教科の結果概要
 - 1 各教科の平均通過率（県全体）
 - 2 各教科の内容・領域別及び観点別の平均通過率（県全体）
 - 3 各設問の分類と平均通過率
 - 4 各受検者の正答数の分布
 - 5 地区別の平均通過率

2 本書の活用について

- 調査の目的や実施の概要を知りたいとき 「I 調査の概要」 ……P 3
- 各教科の定着状況の概要を知りたいとき 「II 各教科の結果概要…P 4
(1 各教科の平均通過率)」
- 各教科の定着状況を内容・領域別及び観点別に詳しく知りたいとき 「II 各教科の結果概要…P 5～23
(2 各教科の内容・領域別、観点別の平均通過率)
(5 地区別の平均通過率)」
- 各教科の設問毎の分類と平均通過率を知りたいとき 「II 各教科の結果概要…P 24～37
(3 各設問の分類と平均通過率)」
- 各受検者の正答数分布を知りたいとき 「II 各教科の結果概要…P 38～43
(4 各受検者の正答数の分布)」

3 本書に使われている用語について

○ 「通過率」

各設問ごとに正答した児童生徒の数を調査実施児童生徒数で除したものを「通過率」とし、分類上、その平均をとったものを「平均通過率」としています。

I 調査の概要

1 趣旨・目的

学習指導要領において身に付けることが求められている基礎的・基本的な内容及びそれらを活用する力について、全県的な調査を行い、客観的なデータに基づき定着度の状況を把握することにより、各学校等での指導法改善の取組を支援し、児童生徒の基礎学力の向上を図る。

2 調査の対象学年、学級等

- (1) 県内すべての小学校第5学年，中学校第1，2学年の全学級の児童生徒を調査対象とする。ただし，複式学級を有する学校においては，履修していない内容を調査から除外して実施する。なお，小・中学校における特別支援学級の児童生徒については，該当学年の学習内容を履修していない教科・内容を調査から除外して実施する。
- (2) 特別支援学校においては，該当学年の学習内容を履修している児童生徒を調査対象とする。

学校種	学年	実施校	調査児童生徒数
小学校(小学部)	第5学年	551校	15,337人
中学校(中学部)	第1学年	244校	14,623人
	第2学年	244校	14,715人

* 調査対象学年に在籍者がいない学校は除く。

* 調査人数は，欠席等により各教科，設問によって異なる。(上記は最大値を示す。)

3 調査の内容

学力調査

ペーパーテストにより，調査対象教科の基礎学力の定着状況（当該学年の12月終了程度までを範囲とする）について調査する。調査対象教科は以下のとおりである。

【小学校(小学部)】 第5学年 …… 国語，社会，算数，理科

【中学校(中学部)】 第1，2学年 …… 国語，社会，数学，理科，英語

4 調査の実施時間

学力調査 小学校(小学部) 45分(調査票の配布・説明等5分，調査時間40分)
中学校(中学部) 50分(調査票の配布・説明等5分，調査時間45分)

5 調査の実施日

平成24年1月17日(火)・18日(水)

6 調査の採点及び結果の集計・分析

- (1) 各学校は，自校の児童生徒の調査について採点・集計を行い，当該市町村教育委員会へ報告する。自校の調査結果については，保護者に対して説明責任を果たすとともに，今後の指導方法改善に生かす。
- (2) 各市町村教育委員会は，管下の学校の調査結果を集計し，県教育委員会へ報告する。自市町村の調査結果については，自市町村の基礎学力の定着への取組に生かす。
- (3) 県教育委員会は，調査結果を集計・分析し，県全体の「基礎・基本」の定着状況について公表するとともに，指導方法の工夫改善の参考となる資料を作成し，各学校に配布することにより，各学校の基礎学力定着への取組を支援する。